



大北小だより

12月号

平成27年 11月 30日

練馬区立大泉北小学校

校長 小島 英樹

<http://www.ooizumi-n-e.nerima-ky.ed.jp/>

今までも、そして、これからも

校長 小島 英樹

今年の学芸会は、いかがでしたでしょうか？ そして、劇に込められた子供たちからのメッセージは、皆様の心にどのように届いたのでしょうか？

友を思いやる心の美しさ、人を信じる心の貴さ、真面目に一生懸命に努力することの大切さ、最後まであきらめない不屈の精神、前向きに挑戦する勇氣、ひたむきに生きていく心のたくましさ等々、教員と子供たちが一体となって、歌と台詞と演技に大切なメッセージを込めて、真剣に演じました。

100名を大きく超える大勢の子供たち一人一人が、自分の役をもち、自分の台詞を言い、歌やダンスや演技に全力を注ぎました。舞台上でスポットを浴びて、大きくはっきりした声で台詞を言い、リズムに乗ってハーモニーを響かせて歌い、身体全体でのびのびと演じた演技は、実は、子供たちが日々の授業や学校生活の中で学び、身に付けてきた力そのものです。

すなわち、国語や音楽等、各教科の学習はもちろん、元気よく挨拶すること、はきはき返事をする事、靴のかかとをそろえて靴箱に入れること、掃除や当番を一生懸命やること、ルールを守りずるをしないこと等、日々の学校生活の中で意識させ、身に付けさせてきた力がベースになって発揮された力なのです。

私達教員は、今までも、そして、これからも子供たちの日々の学びと生活を地道に、着実に指導し、支え続けていきたいと思ひます。

ところで、最近の学校行事で感じるのは、ビデオ撮影する方の多さです。今回の学芸会では、上演中の暗い会場内がモニター画面の光で、まるで天の川のように眩く揺れていました。劇の照明効果が十分に上がらないほどでした。

しかも残念なことに、我が子の姿だけをクローズアップした画面しか視野に入らない方が多くなったような気がします。子供は、一人では成長できません。劇が主役だけで成り立たないのと同じです。主役が上で、脇役が下ではありません。どの役も大切であり、どの場面にも価値があるのです。

我が子の姿だけを追いかけるのでは、支えてくれる周囲の存在の大きさや、さまざまにかかわり合って成長していく過程を見落とし、劇に込められた大切なメッセージにさえ、気付かなくなってしまうのではないのでしょうか。

ぜひ、レンズ越しの“記録”ではなく、我が子と一緒に育つすべての子供たちの姿をご自身の目で見て、肌で感じ、“記憶”として残していただきたいと思ひます。そして、すべての子供たちの成長を、“大人として”大らかに、どっしりと見守っていただきたいと思ひます。

12月行事予定表

◎今月の生活目標 身のまわりの整理整とんをしよう じょうぶな体をつくろう

日	月	火	水	木	金	土
11/29		1 個人面談④	2 大縄集会 4時間授業 (教育会一斉研究会の為)	3 個人面談⑤ 6年社会科見学	4 B時程	5 青少年育成大泉北地区委員会「文化集会」
6	7 全校朝会委員会	8 個人面談⑥	9 児童集会	10 個人面談⑦ 安全指導 月曜時間割	11 避難訓練 防災授業6年	12 土曜授業公開 (木曜時間割)
13	14 全校朝会クラブ	15 3年社会科見学	16 けやき班遊び	17 合唱発表会 リハーサル	18 B時程 合唱発表会 (4、5、6年)	19
20	21 全校朝会クラブ	22	23 天皇誕生日	24	25 全校朝会 給食終 大そうじ	26 冬季休業日始

合唱発表会

音楽専科 林 美由紀

今年度も合唱発表会が近づいてきました。学芸会が終わってまだ一週間ほどしか経っていませんが、練習を始めました。子供たちも、「他のクラス・学年がどんな曲を歌うのだろう?」「指揮・伴奏に挑戦したいな!!」など楽しみにしています。大北小の子供たちは、歌声がとてもきれいです。そのよさが発揮できるように練習を重ねて、自信をもって舞台に立ってほしいです。

今回で第40回を迎える合唱発表会。歌うことの楽しさを味わうとともに、クラス・学年がひとつになることの喜びも感じてほしいと思います。保護者の皆様のご来校をお待ちしています。

気を付けましょう

副校長 大野 正人

安全な生活についてです。ここのところ、大泉北小学校では大きな怪我にはならなかったものの、自動車との事故が数件ありました。もちろん、自動車側の責任が多いのですが、事故に合わないに越したことはありません。また、区内からは不審者が出たという情報が寄せられています。他人ごとではありません。

日暮れが早くなり、自動車からの視認が困難になる、不審者が隠れやすくなるなどの要因があります。しかし、事故や事件から身を守るために必要なことは、自分の身に起こるかもしれないこととして用心しようという気持ちではないでしょうか。この気持ちが行動につながります。学校では、状況に応じた対処をその都度指導してきました。ただ、行動に移すのは一人一人です。手間のかかることもあります。ご家庭でも事故や事件の防止のため、学校での指導に加え一人一人の生活や環境に応じた注意を児童へお願いします。あの時、もっと言っておけばよかったということがないように。